

## 2017年3月期第2四半期 決算説明会における質疑応答

### 開催概要

- 【日時】2016年11月11日（金）13：30～14：20  
【場所】株式会社ゼンリン 東京本社（ワテラストワー12階）  
【出席者】代表取締役社長 高山 善司  
代表取締役副社長 網田 純也  
執行役員 コーポレート本部長 松尾 正実

### 質疑応答概要

以下は、質疑応答の概要をまとめたものです。

Q1：オンデマンドサービスでは世田谷区の需要が高いとの説明があったが、何か特徴的なことがあるのか？

A1：土地取引等を含め様々な要因が考えられますが、住宅地図帳でも世田谷区の需要は高い傾向があります。また、特徴的な傾向として熊本地震の際は熊本市での需要が高まるなど、必要な時に、必要な場所だけを、といったニーズに対応できていると考えています。

Q2：ダイナミックマップ基盤企画株式会社のビジネスモデルはいつごろ見えてくるのか？

A2：2015年度に受託した、内閣府の委託業務「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）自動走行システム」の成果を踏まえ、自動走行・安全運転支援システムの早期実用化に向けて、自動車メーカーと一体となり、「ダイナミックマップ協調領域」のデータ仕様やデータ構築手法の標準化、メンテナンス手法などを検証しており、2017年度を目処としている事業化に向け、課題を整理しながら検討を進めているところと聞いています。

（参考）「ダイナミックマップ基盤企画株式会社」設立のお知らせ

<http://www.zenrin.co.jp/news/160519.html>

Q3：GISパッケージ以外の新しいGIS事業のサービスが業績に寄与するのはいつ頃からか？

A3：GISセレクション（決算説明会資料P20）は、お客様の環境は従前のGISパッケージと変わらないので、サービスインのタイミングで業績への寄与は始まります。（IDとパスワードにてサービス利用可）今年度内でのリリースを目指しています。

Q4：GIS事業の商品・サービスの幅が広がっているが、今後の提供方法に関する考えを聞かせてください。

A4：GISパッケージを中心に、インターネットでの提供を検討しています。そのためには認知を高めるプロモーションが必要となりますが、現状としてはプロモーションコスト等を勘案し、全国の営業拠点での訪問営業を中心に展開しています。

Q5：事業毎の進捗にバラつきが見受けられるが、中長期経営計画の見直しなどは検討しているのか？

A5：事業間のミックスが変わることはあるが、現在のところ全体的な目標数値はこのままで進める予定です。